

『主体的・対話的で深い学び』を実現するための実践研究事業」授業研究会レポート No.7

高知市立潮江東小学校 授業研究会

平成30年9月13日(木)

国語科 第1学年「サラダでげんき」 彼末 りさ 教諭



授業改善を確かな形にするために、新たな学び場がスタートしました。本授業研究会は、これからの「高知の授業づくり改革」に向けて、こういった視点が大切なのかを参加者と共有し、明日からの授業づくりの方向性を確認するとともに、主体的・対話的で深い学びの実現に向け、授業の質を高めることを目的としています。

本時の目標

となりの犬が登場する場面の音読劇をすることを通して、りっちゃんとなりの犬の様子を読み取ることができる。

授業の視点

犬の場面とねこの場面を比べながら読むことで、人物の行動の共通点や相違点に気付かせながら、犬の行動の理由を想像して音読したり動作化したりする学習を目指す。

最終板書

ここがポイント!



国語では、「幹」となる言語活動をしっかりと組織した中で、螺旋的な進化のアプローチのもと、繰り返し丁寧に積み上げていくプロセスを描くということが大切です。

本単元における言語活動のゴールは「音読劇」です。出てくる登場人物が、「のらねこ」や「となりの犬」、「すずめ」と変わっていても、共通なことは「いい音読劇をつくりたい」ということです。そのために子供たちは「読み」を繰り返しています。この一連の活動から、子供たちは次第に「読む」ということはこういうことなんだ」ということを理解していきます。この連続した繰り返しの活動を支えているものが、国語の「見方・考え方」です。この「見方・考え方」を働かせた言語活動を組織することが国語の授業づくりの重要なポイントです。

協議の視点

*のらねこの場面と犬の場面の叙述の共通点・相違点を考えて、のらねこや犬、りっちゃんの行動の理由を想像しながら読むことができるような発問・手立てになっていたか。

授業リフレクション

授業リフレクションでは、「“ももいろ”を“げんき”ということに、結び付けられていたことや前時の場面と比べるということを丁寧にやっていたのはよかった。」「本時は、昨日の学習と今日の学習の共通点と相違点を探るということが、一つのポイントであった。例えば、かつおぶしとハムは、ものは違うが好物なものには変わらない。そういうふうに、“違うもの”だけ“同じもの”という見方を大事にしながら読み取っていくとよかったのではないか。」などの意見が出されました。



問い続ける子供を支える学び



「何ができるようになるか」ということが能力ベースの基本です。これがブレないと、授業の方向性が定まるのでその質が担保されます。その中で子供に“問うべき問い”はいったい何なのか、つまり思考対象の見極めができるかどうか非常に重要です。国語（読むこと）における能力を獲得するためには、把握→精査・解釈→考えの形成→共有のサイクルの中で、子供が常に問い続けていくことが大切です。そして、能力を獲得するこのサイクルを回し続けるエンジンの役割をするのが、“問い”です。この能力を獲得していくためには、その都度、場面に応じて、ちょっとした投げ込みをしていきます。そのことによって、子供は新たなことに気付いていきます。このサイクルを繰り返していきくと、

「こういうものは、こうやって読んでいくんだ」ということが、だんだん分かるようになってきます。したがって、子供が自ら学んでいくようになる土台（素地経験）をやり続けていくことが大切です。

不断の意思決定による学びのデザイン力

授業リフレクションには、“振り返りの省察”と“見通しの省察”があります。どちらも教師の授業力向上につながる重要なことです。この授業リフレクションができない教師は、結果として授業力が高まりません。他の人の授業を自分事としてリフレクションできる力が磨かれた教師ほど、自分の中にそこの学びを取り入れる力がつき、自身の授業の質もどんどん高まっていきます。

これからの新しい時代の授業リフレクションでは、“見通しの省察”が期待されています。つまり、提案授業を次につなげるためには、「今日の何に課題があって、どうすればよかったのか」「よかったところは、それをさらによくするためには、どうすればよかったのか」と、次なる実践をどう描いていったらいいのかという視点で、授業の省察をしていくことが大切です。「なぜ、こうなったのか」ではなく、「こうするには、これをどうすればよかったのか」と、授業中における教師と子供とのやりとりを見ていくことは、“教師の不断の意思決定による学びのデザイン力”を鍛えていくことにつながります。

提案授業から見てきたこと

多くのご意見をありがとうございました。授業中に授業者として授業をコントロールするためにも、「しっかり教材研究を行うこと」、また「子供の発言にブレることなく切り返しができる力を身に付けること」、これらのことを大切に、日々の授業を行っていききたいと思います。

彼末 りさ 教諭

参加者の声

- 単元を通して、子供だけではなく、教師のゴールイメージを明確にもつことが重要だと感じました。そのためには、ブレないねらいを持ち、子供の発言に柔軟に対応できる力を付けていきたいです。
- 国語における一連の流れがどのようなものかが分かり、今後の学習に活かしたいと思いました。
- 事の中の省察力（見通しの省察力）をつけた教師を、一人でも多く育てるための方法を考えていきたいです。
- 授業中に授業者として判断する力、この判断がなかなかうまくできなくても、うまくできたときの喜びを実感したいです。その実感したおもしろさを若年教員にも伝えたいです。
- リフレクションについて、“見通しの省察”という視点で、今後の事後研究会に参加したいと思います。

check!

子供の期待に応える学びをともに作りませんか

受付 14:50~15:10

次回 平成 30 年 11 月 27 日 (火) 教材研究会 15:10 から 4 年 算数科「直方体と立方体」